



带状疱疹

はじめに

身体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点ほんてんと小さな水ぶくれおびじょうが帯状にあらわれる病気です。この症状に由来して、带状疱疹たいじょうほうしんという病名がつけられました。

带状疱疹は、水痘・带状疱疹ウイルスによって起こります。

初めて水痘・带状疱疹ウイルスに感染したときは、水ぼうそうとして発症します。しかし、このウイルスは水ぼうそうが治ったあとも消えることなく、体内の神経節に潜んでいます。

加齢やストレス、過労などで免疫力が低下すると、潜んでいたウイルスが再び活動を始め、带状疱疹として発症します。

60歳代を中心に50歳代～70歳代に多くみられますが、若い人に発症することも珍しくありません。



症状

通常は生涯に1度しか発症せず、再発するのは100人に1人とまれです。一般に、身体の左右どちらか一方の神経に沿って、帯状にやや盛り上がった赤い斑点が現れ、その後粟粒大～小豆大の中央部にくぼみがある水ぶくれができます。

胸から背中にかけて最も多くみられ、全体の半数以上が上半身に発症します。また、顔面、特に眼の周囲も後発部位です。

皮疹が出る前は、少し痒みが混じった、「思わず手で擦りたくなるような」独特の痛みが神経領域にあり、皮疹が出ると火傷のような強い痛みになります。

带状疱疹の患者さんから、水ぼうそうにかかったことのない乳幼児などに、水ぼうそうとしてうつる場合があります。

合併症

通常、皮膚症状が治ると痛みも消えますが、神経に強い損傷が生じると、その後も痛みが持続することがあり、これを带状疱疹後神経痛といいます。また、顔面の带状疱疹では、ハント症候群といって、耳鳴りや難聴、顔面神経麻痺などが生じることがあります。

治療

抗ヘルペスウイルス薬を使いますが、内服薬では、バルトレックス®、ファムビル®、アメナリーフ®があり、7日間服用します。

抗ヘルペスウイルス薬は、発病早期に服用を開始するほど、治療効果が期待できるので、できるだけ早く受診することが必要です。

また、50歳以上で带状疱疹の予防を希望される方は、水痘ワクチンの接種が推奨されています。

